

228
212

古故路乃波志良
全

014001-000-0

228-212

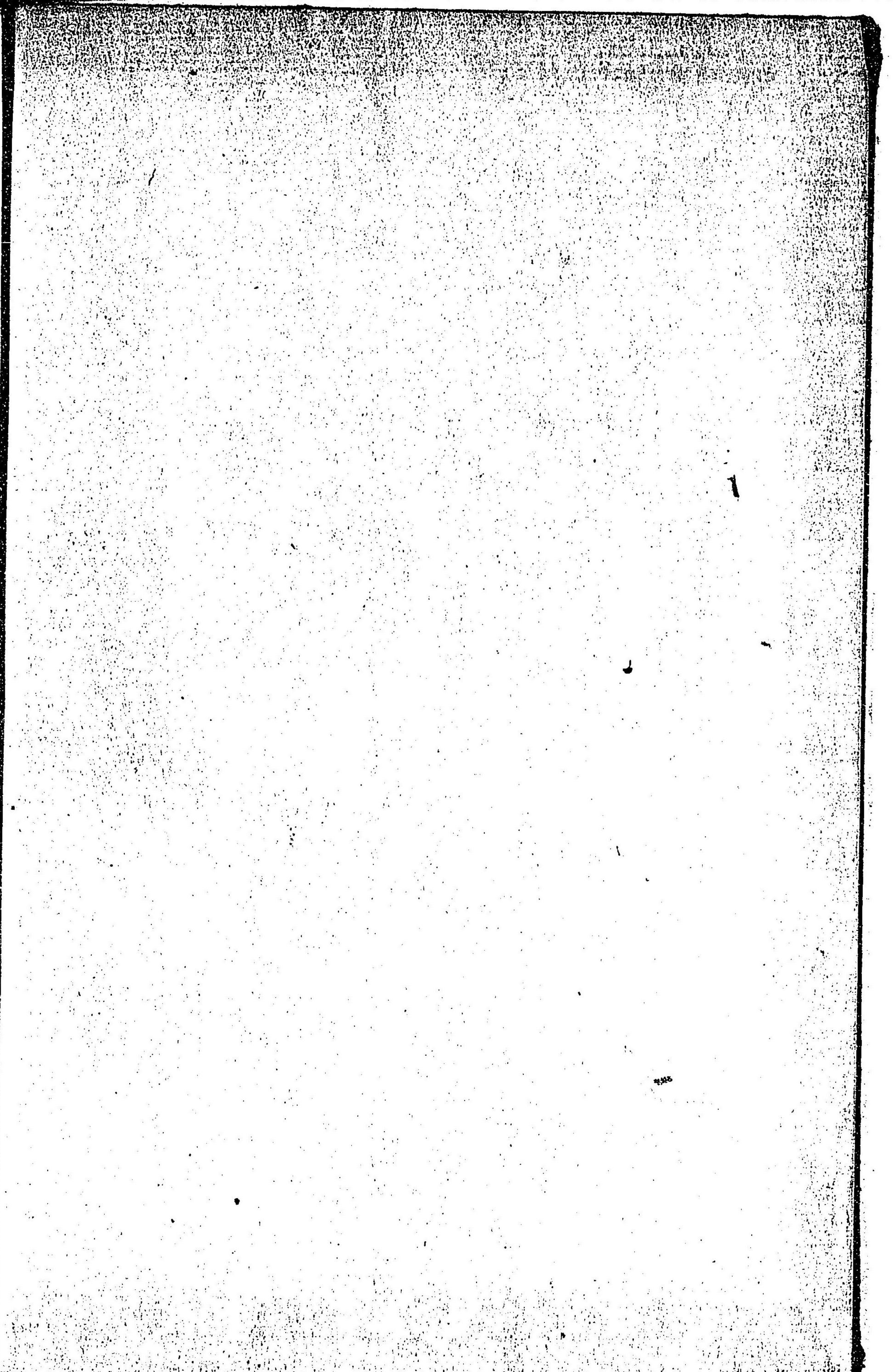
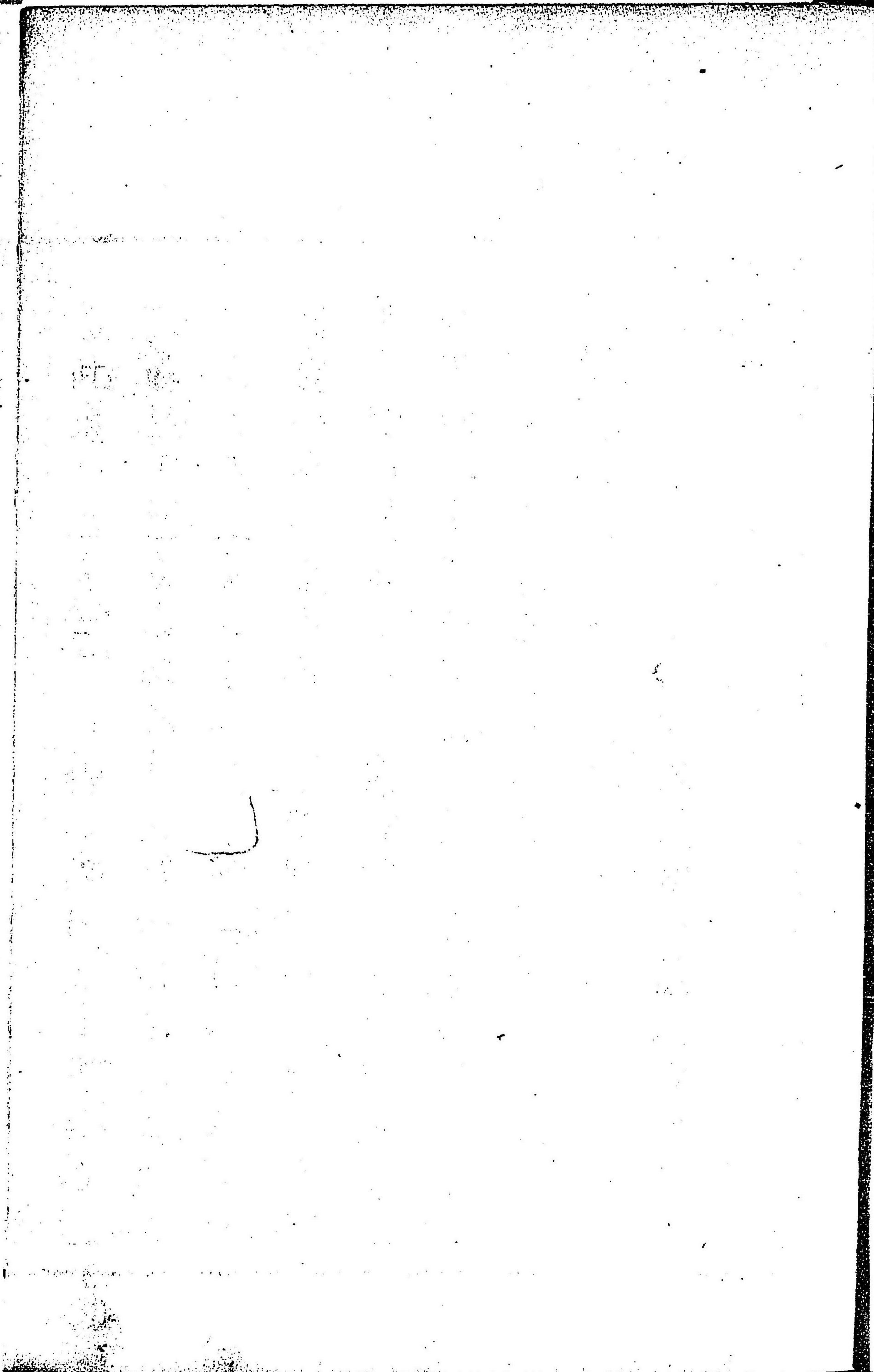
古故路乃波志良

権田 直助/著

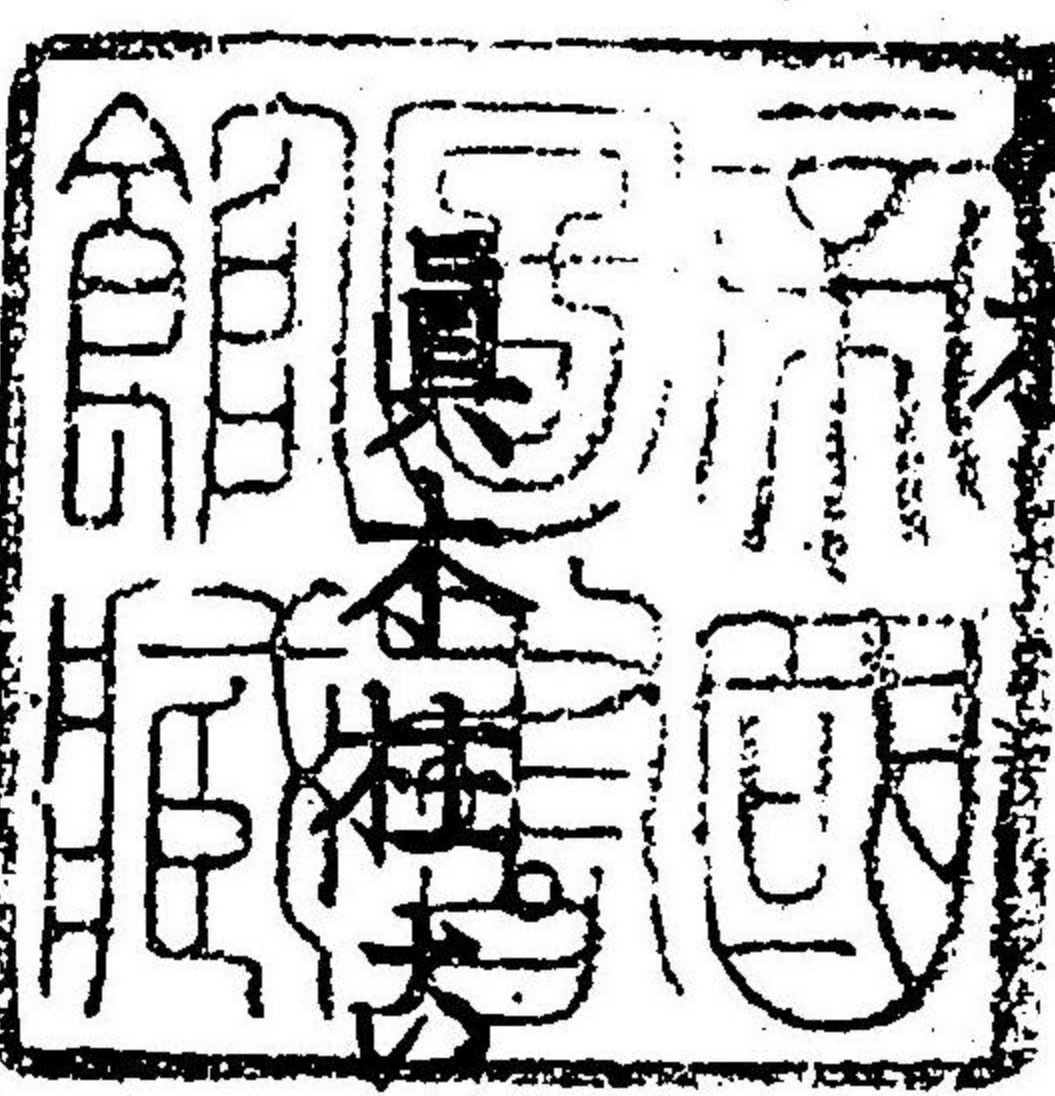
〔刊年不明〕

ABB-0253





心柱



大講義權田直助謹述



家をも身ををも。治むるならんま。
くろ底小。あつこころ。

此歌何人のうまひ出々む。其志らるるよしや
あしやハ。素より我が志る所らあらばまも。
其意ハ眞の道小近しや。やはははし。さて其柱
少志る築立るものハ。かみ二柱の神乃國中
み眞柱少築立るはひし。玉鉾の道小おも有る
る。此道ハ志も靈幸ふ神の御代より。現身の世

〇心乃柱

〇初

小立通りて。天地の共動く。おとあふく。朽る。おさなき。因ら。眞柱。おなも有る。然。世。おある。人。ハ。此。眞柱。の。は。る。眞柱。ある。所。由。を。よく。辨へ。て。己。々。が。心。乃。柱。坐。太。く。堅。く。築。立。け。ら。ま。し。の。は。家。を。治。め。身。を。脩。免。む。事。爲。す。も。以。て。得。ま。し。や。故。其。大。本。お。係。る。神。世。乃。故。事。も。を。摘。出。す。本。柱。と。し。且。己。が。平。常。お。思。ひ。居。る。旨。を。も。取。加。へ。て。動。ま。な。く。築。固。免。て。浮。雲。乃。根。係。る。事。お。ろ。無。が。如。く。心。稚。々。お。く。漂。蕩。居。る。徒。小。其。據。所。を。得。え。免。む。事。左。乃。如。し。

道之大本

古天地未ど成らば。時お天之御中主神と謂して。最も尊交神坐しはせり。

此神を自然尔天は眞中に坐しはして。量る。おら。受。察。る。お。ら。ぬ。高。く。貴。交。大。御。璽。も。て。世。は。大。本。字。起。し。給。ひ。主。宰。お。ま。ひ。る。無。窮。お。幸。ひ。給。ふ。神。お。坐。し。お。め。

此神の璽徳およびて成り坐せる神を高皇産璽神。産璽神と謂ひ。

此二柱は神を産璽の御璽と稱し。世間の千萬は。物。を。産。し。出。ず。賜。へ。る。廣。く。厚。く。貴。く。奇。し。た。璽。徳。を。

具を賜ふ神お坐にあり

此二柱は神に靈妙なる産靈の靈徳ふとりる。其状言ひ難き一は物生る。是を國と謂ふ。其國分判して二とある。一は天國とあり。一は下國と成る。是を天地とは謂ふあり

天才高く上お位し。地を卑く下お位し。尊を卑志き位定まき。此ま道の大本。法は原始ふおもに正け。体さる。其天才則ち天日。地を則ち此國土あり。必と一は物の分判する縁れお因して。今も仍天日純氣勢お從ひる。國土其同を旋回ありけり

又此國土小屬して一の物成る。これを夜見は國と謂ふ。此物斷ち離れて別一の國と成る。即ち今見放くる月あり

こまよと國土より分判するもの故。小國土より從ひて旋回ありけり。おほ按ふ小彼長庚歳星の類。乃五星も此國土と同じく。天日小從ひて旋回を亦其星ども小も許多の屬ける星ありて。其同を旋回はまあるて。皆此國土小屬する月と同じに物と見えたり。斯て此五星どもも天日小從ひる旋回あるを。此國土と同じく。天日より分判する一は國あるの

故ありはてのく成まりし天地夜見はと五星ども
の象状を現世に移し見まむ。天日は高き小位して
其所を移しはして四方に至らぬ隈なく照し明ら
ば大君の大宮内小大御坐して天下を政ごち蒼
生を撫で御免給ひよとせよ親とある者の子等を
恵み育ひ教導くお如く国土の天日小従ひて旋回
するを臣とする者の大君の大命を奉じて仕牙まは
す子とする者乃親に教ふ隨ひて仕るお如し月の国
土小従ひて旋回を臣とする者子の子とする者の
其主其親小事ふるお如し彼星等小のけて言えらむ。

天日を唯一よしする国土を數多くはと其小屬る衛
星どもをよほ其數の多あるを大君を唯一人小坐
しはして臣とする者其數多く臣の臣とする者をお
ほ其數は多あるが如し能く符合りと謂ひはべし。此
道天地の成まる始めに定まりおさりけまむ。
最も古の大神等も皆此道小由てぞ萬行おえせ給
ひおける

爾其天小因て成ませる神を可美葦牙彦身神次小天
之常立神

以上の五柱は神を別天神と稱は

又其夜見小因て成り坐せる神を国之常立神次小豊
斟淳神よと其地小因て成り坐せる神を初土煮神次
小妹沙土煮神此神より五世は神を伊弉諾神伊弉冉
神と謂は

こ後を神の世七代と稱は

あゝ尔高皇産靈神神産靈神の命以る伊弉諾伊弉冉
二柱の神小此漂蕩国を修理固め成せと詔ごちて事
依し賜ひた故二柱の神天降坐して最も妙ある神術
以る先此大八洲国を成し出たまひはと萬の国ニま
も作て固め賜ひた

勅天

命奉

こを天神の大命を奉りて其命のまふく勤み仕
奉り賜ひしふて即ち天地経道小法り賜ひし小
ぞ有けふ

神生

然国を成し終へる愛小海の神山乃神風の神木経神
を生み賜ひ最末小火之迦具土神を生み坐さむとし
て伊弉冉尊男神伊弉諾尊小日七日夜七夜吾ま
赤見賜ひそと白して石隠り坐ち時小夫神は異し
と思わしめしむ伺み賜ひしま甚く恥恨み賜ひて遂
小神避り坐して夜見の国小入り坐し
こを必めて深文御理の有りし事とを量り奉り後

○心乃柱

○田

過悔

るも終るら。其恥愧み坐せる御心の進びよ。天神
の勅を疎る小せさ勢賜ひし。言巻も綾小畏れ
事あり
爾伊弉諾尊大く怒り坐して。即ち其迦具土命を斬り
賜ひ。亦女神の後を慕ひて。夜見國小入。賜ひき
こぬ女神を慕ひませる御心は進びと。天神の大
命を疎る小爲はせ賜へりし。最も恐事あり
け。其妹伊弉冉尊と語りひ賜ふ時。小伊弉冉尊乃白し賜
を。吾妹命何遅く來よし。吾己小夜見つ戸食し

過悔

過改

はと白し賜ひ。交
如此告る御言の中。夫神小對へる乃御言はみ
から。總てを悔い思わし。めは御心も。こも。て最
畏し
伊弉諾尊御心に良し。あらは思わし。女神小別まは
せる時。尔族の。小悲み慕ひし。吾拙る。ゆし。か。て
と。詔せ賜ひ。た
此御言の中。小深く悔い思ほし。免は。大御心のほど
量り。知らまはつ。て。綾小畏れ。こと。か。て。ゆ。り
斯て。還。て。來。よ。し。て。吾。を。不。須。也。凶。目。凶。目。汚。穢。國。小。到

りて在^ア正^シけり。是^ニ御^ミ身^ミは祓^ハへ爲^セむと詔^ミ賜^タひて。筑^ツ紫^シの日向^{ヒムカ}は橘^{たち}の小^コ門^ド乃^ハ櫛^{アキ}原^{ハラ}小^コて身^ミ潔^{ソギ}祓^{ハラ}へ爲^セはせ賜^タひ

こを汚^ケ穢^{ガレ}を除^ヅけ御^ミ過^ア失^チを改^アせはせ賜^タふ大^{オホ}御^ミ行^ワ小^コぞ有^{アリ}けは世^ヨの始^{ハジ}めは大神^{オホカミ}等^{タチ}の道^{ミチ}を重^{オモ}みし賜^タふこ

とのおくはととし。如何^{イカ}も尊^{タフト}たことならや
此^コ御^ミ行^ワ小^コま正^シて。大^{オホ}御^ミ身^ミも清^{キヨ}く潔^{キヨ}く。大^{オホ}御^ミ意^イも清^{スガ}二^ニし
く成^ナらせ賜^タひし時^{トキ}小^コ天^{アメ}照^{テラス}大^{オホ}御^ミ神^{カミ}亦^モ素^{スサ}彥^{ヒコ}鳴^ネ尊^{ミコト}生^ナ坐^マ支^シ。
於^コ是^ニ伊^イ弉^ザ諾^{ナクノ}尊^{ミコト}詔^{ミコト}賜^タふ。天^{アメ}照^{テラス}大^{オホ}御^ミ神^{カミ}を高^{タカ}天^{アメ}原^{ハラ}を知^シら
ずし。素^{スサ}彥^{ヒコ}鳴^ネ尊^{ミコト}を蒼^{アラ}海^{ウミ}原^{ハラ}潮^{シホ}の八^ヤ百^ホ重^ヘを治^{シラ}まむと。詔^{ミコト}

願^{カネ}考^{カウ}

賜^タひき。あま天^{アメ}照^{テラス}大^{オホ}御^ミ神^{カミ}を其^{ソノ}御^ミ依^{ヨサシ}のお小^コく参^マ上^{ノボ}りて。高^{タカ}天^{アメ}原^{ハラ}を知^シらし賜^タひて

こを大^{オホ}御^ミ父^チの大^{オホ}神^{カミ}は御^ミ依^{ヨサシ}のほ小^コく仕^{ツカ}奉^{マツ}正^シ賜^タふるお正^シ古^コは傳^{ツタ}へ漏^シれまども父^チの大^{オホ}神^{カミ}乃^ハ御^ミ依^{ヨサシ}

のみねらば天^{アメ}神^{カミ}の御^ミ依^{ヨサシ}も有^{アリ}しこと言^{コト}はも愛^{アイ}あり又^{マタ}素^{スサ}彥^{ヒコ}鳴^ネ尊^{ミコト}を其^{ソノ}御^ミ依^{ヨサシ}小^コ從^{シタガ}ひ奉^{マツ}らばして吾^アを母^{ハハ}の国^{クニ}根^ネ堅^{カタ}洲^ス國^{クニ}を牙^カ罷^カまほしとて。哭^{ナキ}泣^イち賜^タひけれむ御^ミ父^チの神^{カミ}大^{オホ}く御^ミ怒^{イカリ}はして。然^サバ意^{ココロ}の隨^マふ去^{イネ}と詔^{ミコト}賜^タひて。神^{カミ}逐^{ヤラ}ひ逐^{ヤラ}ひ賜^タふ死^シた

惡^{アク}懲^{チョウ}

如此^{カク}御^ミ父^チの命^{イコト}小^コ背^{ソム}を賜^タひして天^{アメ}地^{ツチ}の道^{ミチ}小^コ反^{ソム}た賜^タ

劇烈志道

いし小て甚じた御行小亦毛有ける
 こゝ素戔嗚尊其事天照大御神小告して罷らむと
 思ほしる高天原小參上り坐し、時よ其御性の健く
 坐し、故安河原比御誓の勝荒小。掘放溝埋畔放頻時
 串刺種二の御荒行爲はせ賜ひ。大く姉妹命の御心よ
 悩ませ奉り賜ひた。故天照大御神其御荒比小堪賜え
 て天比石屋に幽居けまむ。八百萬神等天之安河原に
 會ひて思無神小思えしめて天目一箇命。石凝姥命小
 鏡劍作らし兒玉祖命小。玉を作らしめ。天日鷲命長
 白羽命小。青幣白幣を作らし兒天羽槌雄命に倭文を

盡忠

織し兒天御銚命天八千二姫命小。神衣を織しめ。手置
 帆負命彦狹知命小。瑞御殿亦銚楯を作らまめ。太玉命
 太御幣を取持ち。天兒屋根命。太諄辞を宣り。天手力雄
 神を御門の腋り立せ。天鈿女命。巧小。能優を爲して。大
 御神の御心を取。誘ひ奉りて。石屋を出し奉りた
 こゝ其国の大君と坐。比大御神比。御怒を和。兒常
 闇を明らせむ。せして仕奉りし。小。真乃道。小。慥
 ひ。最も貴。支御行と謂ふ。牙し
 八百萬神等相議りて。罪を素戔嗚尊小負せて。千座置
 戸の祓を科せ。手足の爪を拔きて。神逐ひ小。逐ひ賜ひ

律原

き

姉命サネノミコト小逆サカひ賜タマひしこと天地アメノツチの道ミチを忘ワスレま賜タマひしお
り。さて斯カク八百萬ヤクホの神等カミナリ乃ナリ討ウチらひ賜タマひしを。即スグち刑ツツ
せらる律リツの原由ユヱ小コおも有アリる依ヨ
斯カクて素戔嗚尊スサノヲミコトを其ソノ祓ハラヘの功德イサヲ小コ因ヨりて。御心ミココロ和ヨクみ正タシ支シ
神カミと成ナらせ賜タマひき。

慈憐

上カミ乃ナリ伊弉諾神イサノカミの御禊ミソギ洗ソ件ケンと此ココの祓ハラヘ乃ナリ御行ミユキとを考カガ
へ合アせて。祓ハラヘの功德イサヲ比ヒ大オホまある事コトを辨ワケふむし
因カレ天降アメノクダリりて。出雲国イセノクニ肥河上ヒノカハカミ小行コユキまじして。脚名アシナ推手ツチナ名ナ推ツチ
神カミのとめ小コ其ソノ女メ櫛名シメナ田タ姫ヒメを喫クむとける。八ヤ俣タ蛇ヲを斬キリ

法世守

屠ホツり賜タマひま

こを世ヨの災害ワザハシを除ノケた賜タマへる法ホウみあらは上カミとして
最イ下シモま憐アハレむ道ミチ小コして。最イも最イも尊タラト文フミ御所ミヤ為ナおあむ
有アリける

初ハジメ免ス素戔嗚尊スサノヲミコト脚名アシナ推手ツチナ名ナ推ツチ神カミ小櫛名シメナ田タ姫ヒメ汝ニの女メお
らむ吾アレ小コ進タマシらむや。と詔ミコトせ賜タマひし時トキ小コ恐カシこけまども
御名ミナを知シり奉ツクらば少オホ答コタへ素戔嗚尊スサノヲミコトの吾アレを天照大御アマテラスオホミ
神カミの弟イモおとと答コタへせ賜タマふま受賜ウケタマをりて畏カシし進タマシらむ
と白ヒラして其ソノ櫛名シメナ田タ姫ヒメを進タマシりた

こはさをあり困苦クシは迫セマまる時トキ小コも世ヨの定サダまり乃

律法守

法字失たさぬ毛の小て最愛とし
 斯て素戔鳴尊其櫛名田姫命を妃として御子數多生
 せ賜ひ次ニ御玄孫大己貴神まで生はし後神逐ひ
 法法のお小く根堅洲国即ち夜見国小入坐しき
 さ志も御威健く坐し後くも道多重みし制を守り
 賜ひしを正しやも正しや御事小ぞ有ける
 こく小大己貴神庶兄弟八十神坐しける也其八十神
 甚く妬心深く大己貴神を殺さむと相議て或は欺
 て大石を焼きて其を取らしめて殺しむとし或は
 大木を切倒し矢を茹て其下小追入まらる其矢を放ち

愛慈

て打殺しむとしけるを御母神の大く歎めひ坐し
 て二とびまで救ひ活し賜ひ亦其危ふあらむ事を思
 ひ量らせ賜ひて木国の大屋毘古神の許牙遣て賜ふ
 こく小大屋毘古神大己貴神を根堅洲国小坐し素戔
 鳴尊の御許牙行坐し後く謀り賜ひ支

此御母神大屋毘古神の如此計らひ賜ひしを共
 小邪曲るを憎み正直を憐む御心のやど推量り奉
 らきて最尊し

大己貴神根堅洲国小入賜ひて素戔鳴尊の御許に行
 まし時素戔鳴尊謀て賜ひて或は蛇は室屋小寐志

カ智開

め或は蜈蚣の室屋小入まで苦まよしめ賜ひし時小其御女須勢理姫命大く憐まみ坐して或は蛇の比礼を授け或は蜈蚣の比礼を授けてそれを振ふ禁厭法を教ずて其害を避志免賜ひた

須勢理姫命は御父神の御行小違ひて如此計らえせはるる道小反けるお如くおれども實て御父神密小謀り賜する小因ることねせ

大己貴神其苦しさ小堪ず賜てで素戔嗚尊の寐はせる間小須勢理姫命と相議りて素戔嗚尊の活太刀活弓矢を取持して其御女須勢理姫命を率て逃還りま

した

こを甚く道小違ずるお如し然を有まども素より素戔嗚尊の然事は成行をく深く謀り賜ひしおるま。大己貴神は最少く坐し、おどおれを遂よ脱びま賜えおしなるおし

あく小素戔嗚尊後とて追行坐して遙ニ小見放けて其汝お持とる。活太刀活弓矢を以て汝お兄弟をむ坂の御尾小追伏せ。河の瀬毎小追攘ひて己ま大國主神と成て其吾お女須勢理姫を妻と志る。宇迦山山の本よ底津石根に宮柱太知り。高天原に氷椽高知りて

善勸

惡懲

居まよと呼ひ謂り賜ひま
 され小大己貴神よ無狀坐し、其智カを開のし
 め。如此有せはわしとの。御謀あてしこと。炳焉あて。
 是亦彼八十神の邪曲るを惡み。大己貴神は正直を
 助け坐し、にあもあてける
 ろま大己貴神その御教のまふく。八十神を追退け。
 大國主神とあてて。此國を治め坐し然
 こまも曾祖父素戔鳴尊の命はまふく。仕牙奉り
 賜ひしあて然して八十神字坂の御尾よ追伏せ河
 の瀬毎小追ひ撥ひて。苦あましめはくも殺し賜え

全祖業

天勅

交して歸伏ふはふく。免し賜牙りしを兄弟の情
 を思わし食せむあて
 小大國主神少彦名神兄弟とあてて。國を造り鑿
 の方を定め賜ひま
 こを神産靈御祖命の詔を奉てあてけり
 まくに天照大御神の命以て。豊葦原の中國を。吾子。正
 哉吾勝ニ速日天忍穗耳尊の知らさむ國あて。と事寄
 し賜ひま
 こを天地の間は。大經小は。あて。深地理有ることあ
 めて

斯て天照大御神高皇產靈神天穗日命小葦原中國の
千早振荒神どもを掃ひ向けよと詔して天降し賜ひ
たまはる小穗日命大國主神小婿比附たまふ三年小ある
はで復命奏はざりて

如此復命奏はざりして甚く道小反けるよ似たり。
然有まどめ大國主神の葦原純中國の主と坐し
て領知食せる御勢最眞盛小して容易く事の成り
難きを思慮て心あら交もははれ婿比和たまむと純
御爲おれを強小反々正とて謂はまじりたのそを後
小復命奏して即ち己ま命乃子天鳥船神を天降し

逆反

賜ひしおと知らまたり

復の御使として天若彦降せける小大國主神の女下
照姫を妻とたまはると其國を得むと思慮て八年小ある
おで復命奏はざりたのま三度の御使として名鳴女
を降し賜ひし時小天若彦天探女と相議て即ち其名
鳴女を射殺たまは

こを天神の大命小違はしのみあら交射向ひ奉り
し小等し交所爲よてこまぞ全く天地の理小反け
る甚し交罪と謂ふるを

のま其射と正し矢無端射上げて高天原ある高皇產

靈神の御許小落けるを高皇產靈神甚く異しみ思ほし候。其矢を見そおをして。こを前小天若彦よ賜ひ志矢あり。今如何小して來つらむと。詔賜ひて。即ち其矢を取て詛ひつらむ。天若彦若惡ま心もて射とりしからむ。此矢小遭害られむ。若清ま心めさ射るま志。則ちば幸のまと詔賜ひて。其矢を投げ返賜ひしを。其矢落ち下りて。天若彦の高胸坂中にて。傾小死りた。

こま天神の御詛の志るしに。最も畏こま事ありけり。抑道小反く。則ち其報己小如此。恐る牙し畏こ

命奉

む牙し

如此まよこの御使として。天降り坐し。は健甕槌神。經津主神あり。此二柱の神。大國主神の許ふ到りて。天照大御神高皇產靈大神の問遣をせ。汝の領けぶ葦原の中。國を吾御子の知らさむ。國と言寄し賜牙り。故先吾二神を遣をせ。汝の意何如小。避奉らむや否と問ひ賜ひし時。小天國主神。汝二神を吾許よ來とるお非ざるの甚疑を。故諾おひ奉らじ。と答牙白し。まこを御使の神を天神の勅乃おおく。委らこの小傳牙賜ひ。大國主神ハ理を毛て答牙白し。小て共り

其道を盡せりと謂はばし

くく小二柱の神還り上りる報告しく時小高皇産靈
神乃ち二柱乃神を復し遣して大國主神亦汝の言こ
とを聞く小深く其理有り故更小條ニ小して勅賜ふ
其汝の知らざる顯露事を吾皇孫尊小知らしめ汝
を幽冥事を治はす亦汝の住む處を天日隅宮を造
らせむ亦汝の海小往來をむとめよ高橋よと天鳥船
も造らせむ亦百八十縫の白楯も造らせむ亦汝の祭
を天穗日命小爲させむと懇小告らし免るはひ
支

道考

こを法を立事を盡し其御政を嚴小爲させ賜を
りし小て尊としや謂むも綾よ畏し
くく大國主神天神の御諭如此慇懃あり豈命よ違
支奉らむ吾子事代主神小問て報こと告はばしと白
して問は時小事代主神恐し此國を天神の孫小獻り
賜ふばしと答へ白しき

のくる國の大なり事をしめ少の疑ひ感ふことお
く。と一言小決断め賜ひした御心終底小道の眞
柱築立置支賜ひしあるはし

大國主神吾子の白せるまふく此國を獻らむ吾領

分幽顯

政行

以顯露事^{アラハコト}天皇孫尊^{スメミマノミコト}領^シ賜^{タマ}ふ^シは^シ吾^{アハ}幽^{カク}冥^{ミヤ}事^{コト}を司^シて百^{ヒヨク}足^{タラシ}交^カ八十^{ヤチ}の垣^{クニ}手^テ小^コ隱^{カク}りて侍^{サモ}らひ^シお^ヒむと白^{シラ}して御身^{ミミ}を隱^{カク}し賜^{タマ}ひ^シ交^カ

こを天神^{アマツカミ}を敬^{ウヤマ}ひ天^{オホ}勅^{ミコトノリ}を重^{オモ}みし恐^{カシ}み仕^ツ牙^ツ奉^ツ正^ツ賜^{タマ}ひしお^ヒけ^シめ大^{オホ}國^{クニ}主^{ヌシ}と坐^マして其^{ソノ}威^{イキ}德^{トク}の盛^{シガ}お^ヒ坐^マし神^{カミ}ら^シ既^{スデ}お^ヒ如^{カク}此^{コト}當^マ時^{トキ}道^{ミチ}の盛^{シガ}ありしこと推^{オモ}て知^シる^{コト}は^シき^{あり}

其^{ソノ}後^{ノチ}高^{タカ}皇^ミ產^{ムス}靈^{ヒノ}神^{カミ}先^{サキ}小^コ大^{オホ}國^{クニ}主^{ヌシ}神^{カミ}小^コ勅^{タマ}らせ賜^{タマ}ひしお^ヒは^シ小^コ出^イ雲^{クモ}國^{クニ}多^タ藝^キ志^シの^ノ小^コ濱^{ハマ}お^ヒ天^{アメ}御^ミ舍^ヤ造^{ツク}らし免^メお^ヒ多^タ楢^ノ身^ミ船^{フネ}種^{タネ}二^ニの物^{モノ}造^{ツク}らし免^メお^ヒと天^{アメ}穗^ホ日^ヒ命^{ミコト}を降^{クダ}して長^{ナガ}く

勅天

御^ミ祭^{マツリ}仕^{ツカ}牙^ツ奉^ツらしめ賜^{タマ}ひ^シ交^カ

こを先^{サキ}お勅^{タマ}らせ賜^{タマ}ひし條^{ツギ}二^ニを果^ハさせ賜^{タマ}牙^ツる^{あり}け^シ大^{オホ}政^{セツ}の正^{タテ}し^まこ^ヒ亦^ニ既^{スデ}小^コ此^{コト}のことし仰^{オホ}の^はら^し免^メお^ヒ尊^{ミコト}は^シざ^らめ^や

斯^{カク}て天^{アメ}照^{テラス}大^{オホ}御^ミ神^{カミ}高^{タカ}皇^ミ產^{ムス}靈^{ヒノ}神^{カミ}の命^{ミコト}もちて太^タ子^シ正^{タテ}哉^カ吾^ア勝^{カシ}二^ニ速^{ハヤ}日^ヒ天^{アメ}忍^{シノ}穗^ホ耳^{ミミ}尊^{ミコト}小^コ葦^{アシ}原^{ハラ}中^{ナカ}國^{クニ}已^ニお平^{タビ}治^{ラギ}ぬ先^{サキ}小^コ言^{コト}依^{ヨサ}し賜^{タマ}ひしは^シ小^コ降^{クダ}りて所^{シヨ}知^シ食^ケと詔^{シケ}賜^{タマ}ふこ^こ小^コ其^{ソノ}太^タ子^シ白^{シラ}し賜^{タマ}え^く吾^ア既^{スデ}小^コ御^ミ子^コ生^ア坐^マし交^カ天^{アメ}彥^{ヒコ}火^ヒ瓊^ホ二^ニ杵^{ギノ}尊^{ミコト}と白^{シラ}しこの御^ミ子^コ降^{クダ}ま^さお^しと白^{シラ}し賜^{タマ}ふ^お小^コ彥^{ヒコ}火^ヒ瓊^ホ二^ニ杵^{ギノ}尊^{ミコト}小^コ詔^{シケ}お^はせ^てこの葦^{アシ}原^{ハラ}中^{ナカ}

因て汝知らさむ因あてと言依し賜ふのま命乃お小
く天降り坐あしと詔賜ひて天兒屋根命太玉命天
鈿女命石凝姥命玉祖命併せて五伴男神をさしそ法
の乃招し八尺勾瓊八咫鏡藜雲劍三種神寶をもて無
窮小天津日嗣の御璽とおほせしと詔賜ひて依し賜
ひよる御手に鏡を捧げ持たして祝詔賜えくこの鏡
を専ら吾御魂として吾前を拜くお如く拜ま祭り賜
ふ寶祚の隆盛おほむこと天壤の與無窮あるぞしと
詔賜ひばと天兒屋根命太玉命小勅賜えく汝二柱乃
神御前の事取持て爲政賜へと勅賜ひま

天孫
降臨

抑この御鏡を天照大御神の御璽を移し賜ふる鏡
あまむ即ち大御神お坐はあて今伊勢の内宮小鎮
り坐せし御劍を尾張の熱田宮小鎮り坐せし
こく小彦火瓊杵尊天降り坐むとしはふ時は後
田彦神天八衢小迎牙まほまりのま其後田彦神を御
前小立して天忍日命天大久米命二人執取り負ひ太
刀取り佩交弓矢手握り御前お仕牙お扱ひ天石座を
あま天の八重雲を被威の道別おちりたて筑紫の日
向乃高千穂の穗觸峯小天降おしぬ
こは御天降の御制度も御行装ものく嚴重おし

業創

天神の御孫小坐して掛卷も畏こた吾

天皇乃先於御祖小坐し懐しけまを然有るは此こ

とかりのし

こく小天津彦火瓊二杵尊此處より笠沙の御崎小到

り坐して此處を朝日の直刺国夕日の日照国ありあ

こそ善交地ありと詔賜ひて底津石根小宮柱太敷立

高天原小氷椽高知りて坐あし如

こま大官所の最初あり

こく小天日高彦穗瓊二杵尊笠沙御崎小て麗美人は

遇るよ誰女そと問賜ひしのを吾大山祇神の女木花

開耶姫と白ひ吾汝を妻と爲むと思ふを奈何と詔賜

ひし時小木花開耶姫命吾を得白ひし吾の父大山祇

神ぞ白さむと云し賜ひまのま其父大山祇神小請ひ

遣えし賜ひし時小其神大く歡びて其女開耶姫を奉

しき

この開耶姫命の御答を親小頃ふ道よ慥ひ父神の

御言はま小く歡びて奉りしを君小事を奉る道

ま失を父と謂ふ所し

あく小天津日高彦火瓊二杵尊木花開耶姫命を御妃

として生え賜する御子火酢苺命次小天津日高彦

火ニ出見尊ミコト以ヒ牙ハて二柱坐カしき

其次小天津日高彦火ヒコカヒホニ出見尊天津日嗣所知食賜タマヒひ

死

次小天津日嗣所知食賜タマヒ牙ハを彦波瀲建鵜草葺不合

尊ミコトと謂イハは

次小立せ賜タマヒ牙ハるの神日本磐余彦尊小坐カにあり其兄

五瀬命イハヒと共小高千穗宮ホノミヤに坐カはして議カり賜タマヒをく何れ

の處小坐カをの天下乃政を平ヒラけく聞食キコシメはむまは東の

方カタよこそと詔賜ミコトノコトひて日向ヒムカをり立タして豊国小到トヨクニキり安

藝キ園吉備キクニと漸ヤく小幸コイデおして浪速ナギサの渡ワタリを経て白肩シラカタ

の津小到ツクニキて其所コトより始めて長髓彦ナガヅルヒコ兄ケイ狛ウツ八十建ヤソの徒ヒナを征罰セキバツめ總スベテて荒振アラヅル神カミとぬ不伏人等フセトモを拂ハラひ平ヒラらげ賜タマヒひて大和国畝火ヤマトクニウサヒの橿原カシハラの宮ミヤ小坐カおして天下治ツクニシメしめし賜タマヒひき

こを天神アマツカミの勅ミコトは小く事ツカ牙奉ツクり賜タマヒはる大御業オホミコトノササよる萬世ヨシヨシ終ヘ基モトを立タて賜タマヒひしありと也

自此後コノヨリノチの御代ミコトノヨ々々タタの天皇スミヤマトノミコト皆スベテ天神アマツカミ小仕コツク牙賜ツクはる道ミチを以モて天下治ツクニシメしめはこと申ウラ次ツギも愛サラおす皇子等ミコノタチ臣等オミノタチも

天地アマツチの法則ノリのお小く天皇スミヤマトノミコトを尊タラび敬ウヤひ御政ミコトノササを輔タサけ仕ツカ牙奉ツクりしこと御代ミコトノヨ々々タタ終ヘ皇ミコ典ノミ小昭コシラのあり豈ア尊タラ死

ことあらざや
抑道て世の始に神等の御心小根ざし。天地の象狀小
見え神二の御事業はうほよ著のふして世間小立
ち通れること此の如し。こまを神隨の道とて謂ふお
り。はれを古の教小も能こそ神習を青人草習牙やと
いふり。人としてて神二の御心を心とし。其御事業小
則り。上としてて下を恵み憐まみ導を教は。下として
て上を敬ひ尊び。誠を盡し仕牙奉。顯明の御制度を
畏こみ。幽冥の神乃御心を恐ま心小少のめ邪き隈を
おのぼ朝暮り身を顧み。神小ぬ人小も己が心小も取

びるをく。心乃柱築立て。重き官小任さまし臣等を
夏小も謂て更す。考て臣として仕牙奉るひや。く。を
大君の勅命を畏み奉り。各二受持てる職掌を違ふこ
となく。過たことなく。身を委祿心を盡して。勤志み仕
牙奉り。若世小事有らむ時。その海行を水漬屍山行
を草生屍又額小を箭を立とめ。背を箭を立じと言立
し。古人の蹟を踏。火小も入。水小も入らむ。や。利心振
り起して。一向小仕牙奉るは。あり。又下民小至りて
て。其官二。り。施行せ。る大御。旋を畏み。兼り。背き奉る
ことなく。違ひ奉る。おと。ねく。一向小固く守。家。を治

め。身ミ字ジ慎ツシみ。親オヤを重オモみし。妻メ子コを養ヤシひ。族ウラ小シ親シみ。朋トモ友モ尔ル
睦ムクび。苟カ小コも争アラそひ。論カふることカク。ゆユ免メく。奸カクシく。邪ヨシ
心ココロを懷イく。愈イのらラ。父ウチ偽イらハ。後ノチ飾カらハ。父ウチ直チカく。正タシく。家イの業ウサを
懈オボらハ。勤シみ。勞イき。御ミ法ホウのハ。おホく。貢ミツ物キモノ上ウまツ。正チカ仕ツカ牙カ
奉ツクる。こソ。君キミ親オヤ小コ事ツカふル。道ミチ小チしス。天アメ地ツチのホ。法ホウ小チ合カひ人
のヒト。とス。るツ。勤ツトめト。をテ。謂イふハ。けキ。若ニシ此コノ道ミチ小チ寄ヨらシて己
が向ニ論ひ定むらむよ。を己の好む所もて善しと
を己の惡む所を以て惡と爲るこ。とおり行くめれ
を其善とし惡といふも。皆ミ己の私シ小チて眞の善惡小。あ
ら父然カ私シ小チ定サ免スる法を以て身を修免ス。家イ字ジ齊チ免ス。は

と君キミ小チ仕ツカ牙カ奉ツクり。親オヤ小チ仕ツカふらむお。を己を失る乃みお
ら父終ツヒ小チを君を誤り。親オヤ字ジ謬ミり。世ヨの災ワ害ハを醸し。家イ法ホウ
擾ニ亂レを引出イ。ほらむぬ。知シる法のら。父ウチ。さレ。此コノを己。この心ココロ
の底。天アメ地ツチ小チ法ホウりとる。太く堅。父ウチ眞シ柱シ字ジ築ツキ立タてお。交マ
そを法ホウとして世間ヨノナカの萬法マンホウ事モノ物モノの善惡ヨシアシを撰び定る小
有アらは。ちまを眞の善惡ヨシアシとを言イひお。とのる法。し。譬を金
銀ニ銅ド鐵テツ字ジ取トリ立タてを置オキて孰の善けむといわぬ。大オホ概カを金
を善とし。次を銀次を銅鐵最モ卑イしといわむぬ。こま
己の好コむと不コ好ハルところを以テ斷サるもの尔て私の善
惡アシ。かり。天アメ地ツチの理小チ則ツトりて。眞シの善惡ヨシアシをいわぬ。鐵テツ最モぬ

善しく銅これ小は文。金銀これ小はぐらし。そて世小
無くてのあてぬ。食物衣服住む家らを造り成は。鋤鉄
鎌斧鋸鑿鋤錐小刀針鋏の類を夏あり。總て物を造
し出は器物を皆鐵小有らざまむ。其物を造し得るこ
少あし。ちまば鐵を最も上とせむ有るをのら。文銅
こま小次ぎて。其功用を助く。金銀惡とまむ。小を有ら
ばれども。その其質の美しさを以て。位高た邊の眼を
喜むしめ。心を慰は。終しむるはみ小る。其功用甚少あ
し。但志物を賣買ふ。貨とめあま。くど。其た。何れの物
を以る。代へ用くとめ事足るべし。此故小天地を成し

出賜ひし神等の御心として。世の始め最先小此物を
有しめ。彼瓊鉾廣矛十握八握は。劍及天津日嗣の御璽
の鏡劍も。此物以ぞ作しめ賜ひ小ける。又御代々々の
天皇の天下を政賜ひ。荒振もの。せめを。打平らげ。邪奴
ら。誅おひ賜る器も。此物小て。かよ。あ。く。小。無。く。て。
あ。ね。て。ぬ。物。あ。る。あ。ら。因。中。小。多。く。産。出。し。免。賜。は。る。に
あ。も。有。け。る。ち。る。を。誤。り。て。私。小。定。免。さ。る。則。よ。從。ひ。鐵
を。惡。し。と。志。金。銀。貨。善。や。ま。る。心。を。も。て。身。を。修。め。家。を
齊。め。む。せ。せ。た。家。を。飾。り。衣。服。を。美。を。し。く。し。飲。食。を。甘
く。し。く。ろ。ば。奢。侈。あ。小。心。女。二。し。く。成。り。行。く。免。ま。む。と

お妻子奴婢等を悦ヨロシむしむるのみこそあま何ナニで身ミを
も家をめ治ヲサめ得ウケべしや。後ノチ必ず破ウツるはり。はまむ天地
の法フシも合アふ法ホウ。眞マコトは善ヨシ惡アクシも就ツキて鐵テツを善ヨシとして。其ソノ鐵テツ法ホウ
如ゴトクく堅カタく強ツヨクく儼ケンらば飾カシは直ナホく正ただしく。心ココロの柱ハシラ築ツキ立て
こそ君キミ小事コトへ奉マツり親オヤも仕マツへ。身ミをも家イも治ツラむ法ホウを
ものおまも思オモふはるし。よく考オモふ法ホウし

此の書ハ、まやく明治四年のころのけらばせられ、
はゞて假字がきにて、其の傍に本字を註ツせむ志
き、のくくハあかぬてお人のたゑ、あつてく、ふたよ
ま、のくくハあかぬてお子の等あひはつり、翁
にとりて、かくつて改をるるあり。きるるまの侍
あつたゆゑ、世の人にときあつらき、日本心の花さあ
さゆゑ、あつたゆゑ、おのれ人乃多あり、はるかに、おや
くもかく、櫻木にふは、はき、ありやぞ。かき今披
き、みるに、假字の用格整は、ま、み、ゆるある書、おき
は、と、れ、ら、き、あ、れ、や、其、を、今、更、に、あ、ら、た、ま、を、心

少きしる業をせしむるに閣き初。覽む入系
 登りてんら。

受業生

岡部讓梓識

神羽白舎藏版書目

○訂刪神遺方

三卷

○古鑿道治則

一卷

○古鑿方經驗略口義

一卷

○鑿道百首

一卷

○古鑿道治則略注

一卷

○鑿道百首解

一卷

○大同類聚方

武藤直紀刻
今為藏版
以上鑿道

百卷

○心乃柱

一卷

○古傳概略

一卷

○詞比真澄鏡

一枚

○詞比經緯圖

一枚

○詞比真澄鏡
詞比經緯圖解

一卷

○鑄造化育論

附錄卷

三卷

○古史言行頌

二卷

○中外經緯傳

近刻
六卷

○鎮魂傳

近刻

二卷

○除疫癘祝詞

小折本

○柿本人麿像

一枚

○讀本玉鉉百首

本末歌

一卷

○神字五十音

一枚

○五十音圖

一枚

○幽顯君父圖

一枚

○

228
212

製本所

東京小傳馬町三丁目新道

吉岡十次郎

